

LINE 公式アカウント始動!

開業医の先生方とより綿密な地域医療連携を促進するため医療機関向けのLINEアカウントを作成致しました。当院や医療に関する情報の共有を図っていききたいと思います。ぜひ友達追加をお願い致します。

友達追加はこちら ▶



大阪南医療センターからの情報を日々更新中!!

フォローお願いします♪

TOPICS

血液内科の診療再開について

当院の血液内科について、昨年4月より週1回の外来のみの診療体制としておりましたが、本年4月より入院診療をはじめ本格的に診療を再開することが可能となりましたので、ご案内申し上げます。

地域医療機関の皆様にはご迷惑をおかけしましたが、今後とも地域医療支援病院としての役割を果たすべく一層尽力して参りますので、ご理解の程お願い申し上げます。

手洗い動画を作成しました



手洗いや消毒による手指衛生は、今や私たちの生活の一部となりました。コロナをきっかけに広がったこの感染予防行動が、正しく生活習慣として身につけてほしいという想いから、当院のICT(感染対策室)協力のもと、オリジナルの手洗い動画を作成しました。

こちらの動画は右のQRコードからLINEの友達追加をしていただくと、ダウンロードが可能となります。身近な人に送る、患者さんに見せる、待合室で流すなど、どのようにご利用いただいても結構です。たくさんの方にご覧いただければと思います。

友達追加はこちら ▶



広報誌「南窓」のご意見・ご感想をお聞かせください

広報誌「南窓」をお読みいただき、誠にありがとうございます。

ご意見・ご感想はこちら ▶ <https://contact.osakaminamihosp.jp/>



お客様一人ひとりの声をより良い広報誌作りに活かしてゆきたいと考え、ご意見・ご感想を募集しております。

皆様からのご意見は、今後の改善を進める上で参考にさせていただきます。上記のURL または QRコードよりフォームにアクセスが可能です。

※ご意見・ご感想への返信はいたしておりません。ご了承ください。ご意見全てにはお応え出来ない場合がございます。予めご了承ください。

大阪南医療センター 循環器疾患センター 24時間緊急対応 (ハートコール) 胸背部痛、呼吸困難、動悸等 循環器疾患が疑われる際には緊急対応連絡先へご連絡ください。直通 Tel. 0721-53-3200

独立行政法人 国立病院機構 大阪南医療センター

地域医療支援病院 | 地域がん診療連携拠点病院 〒586-8521 大阪府河内長野市木戸東町2-1 Tel.0721-53-5761 Fax.0721-53-8904 診察・検査の予約方法ははこちら ▶



南窓

Minami Mado

皆さんとともに大阪南の地域医療を支える広報誌

2022年3月号 No.19

独立行政法人 国立病院機構 大阪南医療センター
National Hospital Organization Osaka Minami Medical Center

診療科 NOW 産婦人科



婦人科

最新の治療法を積極的に導入し女性の人生を支える

かねむら まさのり
産婦人科医長 金村 昌徳

産科

産前から産後まで妊産婦さんをトータルにケア

むらやま ゆみ
産婦人科医師 村山 結美

「産婦人科の動画はこちら」

【婦人科】急増中の子宮体がんシグナルは不正出血

金村 当院は地域がん診療連携拠点病院として、婦人科においても一般的ながんから希少がんまでに対応でき、最新の治療法を導入するなど、高度な治療を提供しています。たとえば分子標的治療薬はさまざまな種類が出ていますし、放射線科では線量を調整し腫瘍にのみ放射線照射できるIMRTを導入。いずれも副作用が少なく、さらに副作用をコントロールする薬剤も進化しているのは、朗報と

いえるでしょう。

婦人科系のがんでは、近年「子宮体がん」が増えており、子宮頸がんを逆転しています。子宮体がんは子宮内膜を増殖させる作用のあるエストロゲンに依存して発症することがわかっていて、少子化と生活の欧米化で肥満傾向の方が増えたことがひとつの原因と考えられます。その治療は手術が最も有効。切除してがんの広がりを正確に診断し、放射

線治療や薬物療法などを追加する必要があるかどうかを判断しますが、何といても取り切れるかどうかで予後が大きく変わりますので、何より早期発見が肝要です。子宮頸がんとの違いは不正出血という初期の自覚症状が現れること。一方で検査の精度は子宮頸がんより劣りますので、不正出血があれば、すぐに来院をお願いしたいと思います。



骨盤臓器脱では**低侵襲の腹腔鏡手術**を採用

「骨盤臓器脱」について新しい術式を採用していることもご紹介したいと思います。骨盤臓器脱というのは、ご存じのように、膀胱や子宮骨盤内の臓器が膣や肛門から脱出してくる疾患で、臓器を支える骨盤底の筋肉が、多くは加齢により弱くなることで発症しますが、出産で傷ついたことが原因となる場合もあり、高齢者に限らず40代、50代の患者さんいらっしゃいます。頻尿やおしっこが出にくいといった症状も表れますが、まず何よりも股の間に何か挟まっている違和感がありますので、ご自分でもわかりやすいでしょう。

治療は原則的には手術療法です。新しい術式といえますのは腹腔鏡下仙骨腔固定術といまして、メッシュと呼ばれる医療用人工繊維で子宮頸部と膣壁を仙骨に縫い付けて吊り上げる手術です。従来から行われている腔壁形成術ですと再発率が高く、TVM手術ではメッシュ露出による膣炎が起こりうるというデメリットがあり、これに対応するものです。また開腹ではなく腹腔鏡を使う低侵襲の手術という点もメリットです。

この例に限らず、私たちは手術において、患者さんへの体の負担の少ない方法をできる限り選択したいと考えています。

[産科] 他院でお産された方もサポート難しいお産は**他科との連携**で

村山 当院は、赤ちゃんだけではなくお母さんにもやさしい病院でありたいと考えており、経験豊富な助産師たちと共に、産前から産後まで妊産婦さんの心に寄り添いながらさまざまな取り組みを行っています。たとえば「おっぱい外来」は、産前からおっぱいの発達のかたやケア、授乳のアドバイスなどを

させていただいており、特に産前から、というのは当科の特徴だと思います。また、近年問題になっている産後うつなどに対しては、場合に応じて当院の臨床心理士、週に一度来られる精神科の先生と一緒にケアに当たります。悩みやしんどさを抱えたままにせず、ぜひ気軽に外来受診していただきたいですね。

赤ちゃんの顔が鮮明に **4D エコー外来**を新設

出産後は、お母さんと赤ちゃんの状態がよければ分娩直後からの母児同室も可能です。コロナ禍となり、現在はママと助産師1体1での「ママ教室」のみとなっておりますが、元は「ママパパ教室」という赤ちゃんを迎えるための正しい知識をみんなで学ぶサークルを開催していました。出産に向けての不安や悩みを気軽に相談できる場として好評でした

ので、早くまたみんなで集える日を私も心待ちにしています。

ほかにトピックスとして、昨年、赤ちゃんの顔がはっきり見える4Dエコーを導入。専門の外来を設けました。動画でお渡しすることもでき、コロナ禍でお父さんや親御さんが一緒に病院に来ることの難しい今、とても喜ばれています。

お産に関しては、リウマチや糖尿病の診療科と連携し、そうした合併症をお持ちの妊産婦さんも多く受けていることを、この機会に改めて周知させていただければと思います。



看護実践の地域への展開を視野に入れて 必要なとき**必要**とされるために**研鑽**を

看護部長 ^{たかた} 高田 ^{さちこ} 幸千子 副看護部長 ^{おくだ} 奥田 ^{たかこ} 貴子



看護師一人ひとりが**看護部の誇り**

高田:新型コロナウイルス感染症の現在の第6波における看護部としての一番の課題は、院内クラスターを起こさないということです。院内クラスターが発生すると、診療制限が余儀なくなり、地域医療に悪影響を及ぼすからです。

大阪南医療センター、そして看護部は、この医療圏の中で、必要な方々に必要とされている時に頼りになる存在でありたいと思っており、常々師長会で発信してきました。私たち医療者の感染リスクもゼロではない状況の中で、「私たちはつぶれるわけにはいかない」と300名強の一人ひとりの看護師が自覚

してくれている表れと感じています。自分を律し、日々最前線で働いている看護師たちのことを私は心から賞賛するとともに彼らを誇りに思っています。

奥田:看護部長には、現場がうまく機能しているかどうか、看護師のメンタル面などの状況を含めてタイムリーに報告しています。その情報をもとに、各病棟間の応援体制の決定や今後起こりうることを想定したうえで的確な指示など、看護部長のリーダーシップが、看護師のモチベーションにつながっていることを現在のコロナ禍で改めて実感しています。

認知症体験ができる研修プログラムなど新しい試みも

高田:認知症患者さんへの看護は、大変難しく、多くの看護師がジレンマを感じています。看護師は、個々の患者さんの状況や思いを受け止め、理解してケアを構築していきます。よく私たちは、「患者さんの立場、身になって考える」と言います。しかし、認知症の方がどのように感じ、どのように思っておられるのかについて思い至ったり、理解するのは難易度が

高いです。そこで、VRを使った認知症体験ができる研修プログラムを計画し、4月に実施予定です。VRで、認知症の方の環境や場の見え方、感じ方を体験することができます。この体験をすることで、これまでのケアを見直し、今後の接し方例えば、声のかけ方、私たちの立ち位置や視線の位置などの工夫ができ、看護ケアの向上が図れると期待しています。

地域医療の今後のために

高田:まだ新型コロナウイルス感染症は収束していませんが、上手につきあっていく知恵や工夫も生まれてきたと思っています。また、これからの時代、看護も病院の中だけで完結してはいけなさと考えています。地域で医療・保健・福祉を担っておられる方々や在宅で過ごされている方々とうまく連携していくことが肝要です。まずは、地域と病院間で患者さんの状態や状況、課題などについて積極的に情報交換や意見交換をしていきたいと考えています。患者さんに安心して地域に戻っていただくために、地域連携室だけでなく病棟看護師も助産師もアクションを起こしていきます。どうぞ、よろしく願います。

奥田:現在、緩和ケア病棟の開設に向けて準備を進めています。がん診療において、「どの病期でも大阪南医療センターがある」と地域の方に思ってもらえるよう、がん患者とご家族をしっかりと支えることのできる体制を整えたいと思います。